杉山二郎教授略年譜

昭和　三　年　九　月　十四　日　東京に生まる
昭和　十六　年　四　月　東京府立第五中学校入学
昭和　十九　年　五　月　土浦海軍航空隊飛行予科練習生
昭和　二十　年　九　月　都立第五中学校復学
昭和二十五年　三　月　都立小石川高等学校卒業
昭和二十五年　四　月　千葉大学文理学部医学部コース入学
昭和二十七年　四　月　東京大学文学部美学美術史学科編入
昭和二十九年　三　月　東京大学文学部美学美術史学科卒業
昭和二十九年　四　月　東京大学文学部美学美術史学科研究生
昭和三十一年　二　月　奈良国立文化財研究所美術工芸室
昭和三十六年　一　月　東京国立博物館学芸部資料室に転ずる
昭和　四十　年　六　月　東京大学イラク・イラン遺跡調査員併任。西アジア地方を発掘調査する（四十一年四月まで）
昭和四十一年十一月　一　日　著書『大仏建立』により毎日出版文化賞受賞
昭和四十二年　一　月　東京国立博物館開催「メソポタミア展」のためイラクに出張
昭和四十四年　四　月　東京国立博物館学芸部東洋課東洋美術室

昭和四十五年　四　月　東京国立博物館学芸部東洋課東洋考古室長に就任
昭和四十六年　八　月　総理府事務官併任「青年の船」教官となり、台湾・タイ・ビルマ・マレーシア・スリランカを巡る（四ヶ月）
昭和四十九年　四　月　東京大学イラク・イラン遺跡調査に参加
昭和五十二年　四　月　東京大学イラク・イラン遺跡調査に参加
昭和五十四年　四　月　東京大学イラク・イラン遺跡調査に参加
昭和五十五年　四　月　東京大学イラク・イラン遺跡調査に参加
昭和六十一年　四　月　東京国立博物館学芸部東洋課西アジア・エジプト室長となる
昭和六十三年　四　月　長岡技術科学大学工学部教授に就任（平成四年三月まで）
平成　四　年　四　月　仏教大学文学部教授に就任（平成八年三月まで）
平成　八　年　四　月　国際仏教学大学院大学教授に就任
平成　十六　年　三　月　停年により国際仏教学大学院大学教授を退職

その他の役職及び所属学会

美術史学会（昭和三十二年四月より現在に至る）、日本オリエント学会（昭和三十九年四月より現在に至る）、日本考古学会（昭和四十五年四月より現在に至る）、松戸市文化財審議委員（昭和四十八年四月より六十二年三月まで）、長岡市立博物館構想委員（昭和六十三年四月より現在に至る）、静岡県文化財審議委員（平成元年四月より平成十年まで）

杉山二郎教授著作目録

著書

『天平彫刻』（日本の美術　一五）　至文堂　一九六七年七月　一一六頁［編集］
『大仏建立』　学生社　一九六八年十一月　二四二頁、図版
『鑑真』（東洋美術選書）　三彩社　一九七一年一月　図一七枚、八九頁
『木下杢太郎　―ユマニテの系譜―』（平凡社選書　二九）　平凡社　一九七四年一月　三四〇頁
『正倉院　―流沙と潮の香の秘密をさぐる―』（ブレーン美術選書）　ブレーン出版　一九七五年十月　三三〇、xii頁、図版二六枚
『わたしの「厥後集」―杢太郎論の反響を廻って―』（杢太郎記念館シリーズ　七号）　杢太郎記念館　一九七六年六月　三二頁
『鑑真』（東洋美術選書）［新装版］　三彩社　一九七七年八月　図一七枚、八九頁
『西アジア南北記　―沙漠の思想と造形―』　瑠璃書房　一九七八年九月　三六三、三頁
『正倉院　―流沙と潮の香の秘密をさぐる―』［増訂版］　瑠璃書房　一九八〇年十月　三四五、一二頁
『オリエント考古美術誌　―中東文化と日本―』　日本放送出版協会　一九八一年三月　二五四頁

（ＮＨＫブックス　三八六）

Classic Buddhist sculpture : the Tempyo period　Translated and adapted by Samuel Crowell Morse. Kodansha International : Shibundo, Tokyo ; New York : 1982, 230 p. (Japanese arts library 11)

［『天平彫刻』の英訳］

『オリエントへの情熱　―自叙伝的試み―』　福武書店　一九八三年三月　二五四頁

『仏像　―仏教美術の源流―』（図説考古学選書）　柏書房　一九八四年六月　一五一頁

『極楽浄土の起源　―祖型としてのタク・イ・ブスターン洞―』　筑摩書房　一九八四年七月　二三九頁、図版六枚

『風鐸　―歳時風物誌―』　瑠璃書房　一九八五年一月　二一八頁

『大仏建立』［新装版］　学生社　一九八六年七月　二四二頁、図版

『大仏以後』　学生社　一九八六年七月　三一八頁、図版一枚

『遊民の系譜　―ユーラシアの漂泊者たち―』　青土社　一九八八年四月　三三七頁

『真贋往来　―文化論的視点から―』　瑠璃書房　一九九〇年七月　二九六頁

『日本彫刻史研究法』　東京美術　一九九一年六月　三九六頁、図版八頁

『遊民の系譜　―ユーラシアの漂泊者たち―』［新版］　青土社　一九九二年十月　三四〇頁

『遊牧と農耕の峡にて　―ユーラシア精神史考―』　学生社　一九九三年五月　二一六頁

『天平のペルシア人』　青土社　一九九四年十一月　二九四頁

『木下杢太郎　―ユマニテの系譜―』（中公文庫）　中央公論社　一九九五年八月　五三一頁

［増訂版］

『縄文時代の女性像
　―上代文化の女性像の東洋と西洋―』［講演録］　茅野市教育委員会　一九九六年八月
『仏教文化の回廊』　青土社　一九九八年十二月　三〇一頁
『大仏建立』［新・新装版］　学生社　一九九九年十一月　二四二頁、図版
『大仏以後』［新・新装版］　学生社　一九九九年十一月　三一八頁
『大仏再興』　学生社　一九九九年十一月　二八六頁、図版一枚

研究図録・美術全集

『世界美術全集　三　―日本（三）奈良―』　野間清六編　角川書店　一九六一年五月　二四二頁、［グラビア図版解説］
『世界美術全集　二〇　―オリエント（一）西アジア篇―』　江上波夫編　角川書店　一九六三年一月　二四七頁、［カラー図版・グラビア図版解説］
『大英博物館　Ⅱ』（世界の美術館　四）　柳宗玄編著　講談社　一九六六年九月　一八三頁［図版解説］
『インドの仏蹟とヒンドゥー寺院』（世界の文化史蹟　九）　中村元編　講談社　一九六八年二月　二一五頁、図版［解説（一部）］
『ニューデリー美術館』（世界の美術館　九）　町田甲一編　講談社　一九六八年九月　一八三頁［図版解説（一部）］

『原色　世界の美術　第一三巻
　―インド・西アジア―』
『古代インドの石彫』
座右宝刊行会編　小学館　一九七〇年十一月　二三四頁
［図版解説］
佐藤宗太郎撮影　河出書房新社　一九七〇年十一月
図版一〇七頁、三八頁［本文・図版解説］

『東京国立博物館図版目録　―大谷探検隊将来品篇―』
東京国立博物館［一九七一年三月］一五八、二一頁
［編者・本文・目録記述］

『インドの美術』（グランド世界美術　四）
講談社　一九七六年　一四七頁［編集・解説］

『大英博物館　―秘宝と人類文化の遺産―』
（世界の博物館　六）
三上次男編　講談社　一九七七年十一月　一七八頁

『古代シリア展　―オリエント文明の十字路―』
［展覧会カタログ］
東京新聞　一九七七年五月［執筆：（本文）「大帝国進出のころの美術」、「東西文明の結合　―とくに隊商都市パルミュラを巡って―」］

『世界の美術　八七　―中央アジアの美術―』
（週刊朝日百科）
朝日新聞社　一九七九年十一月
九-一六九―九-一九六頁［責任編集、執筆：（本文）「中央アジアの石窟芸術」・「クチャ周辺の美術活動」・「天山南路南道の美術」、作品解説］

『東洋古代ガラス　―東西交渉史の視点から―』
東京国立博物館　一九八〇年三月　一九七頁
［本文・図版解説］

『インド古代彫刻展』［展覧会カタログ］
東京国立博物館編　日本経済新聞社　一九八四年

『シルクロードの遺宝
―古代・中世の東西文化交流―』［展覧会カタログ］
東京国立博物館編　大阪市立美術館　日本経済新聞社
一九八五年［執筆：（本文）「日本に於けるシルクロード遺宝についての研究展望」］

『タイ美術展　―日タイ修好一〇〇周年記念―』
［展覧会カタログ］
東京国立博物館　朝日新聞社編　朝日新聞社
一九八七年八月　一七四頁［執筆：（本文）「タイ仏教美術管見　―観照のために―」］

『世界の大遺跡　七　―シルクロードの残映―』
講談社写真　講談社　一九八八年十一月　一七五頁
［編集・執筆］

共著・編著・対談集

『奈良　―古美術ガイド―』
田辺三郎助著　美術出版社　一九六五年九月　二〇二頁

『寧楽』（カラー大和路の魅力）
入江泰吉写真　淡交社　一九七二年九月　二三六頁、地図

『藤原鎌足』（批評日本史　政治的人間の系譜　一）
梅原猛　田辺昭三著　思索社　一九七二年二月
三四五頁、図版

『織田信長』（批評日本史　政治的人間の系譜　四）
会田雄次　原田伴彦著　思索社　一九七二年七月
三二〇頁、図版

『攻めの文明・守りの文明』（ロッコウブックス）
江上波夫　松田壽男著　六興出版　一九七九年四月
二五五頁、図版

『奈良　―美術ガイド―』
田辺三郎助著　美術出版社　一九七九年六月　二七一頁

『シルクロードと仏教』
金岡秀友　井本英一著　大法輪閣　一九八〇年三月
二六八頁

『国家成立の謎』
仏教東漸の道（五―五六頁）［執筆］
シルクロードと仏教（五七―一九〇頁）［鼎談］
松本清張［ほか］著　平凡社　一九八〇年四月
三一九頁

『天平の光と影　―大仏建立をめぐって―』
上原和［ほか］著　講談社　一九八〇年十月　二四四頁
大仏建立（八五―一三二頁）［執筆］

『毒の文化史　―新しきユマニテを求めて―』
山崎幹夫著　講談社　一九八一年五月　三三四頁

『世界史の新視点　―学問・略奪・探検―』
江上波夫　松田壽男著　六興出版　一九八一年七月
二九六頁

（ロッコウブックス）
松本清張編　日本放送出版協会　一九八一年十一月
序　正倉院宝物への誘い　―小史にかえて―
（五―一四頁）［執筆］
第一部　正倉院への視点（一五―一三四頁）
［座談会司会］

『正倉院への道』

『奈良　―美術ガイド―』［新・新装版］
『大仏と正倉院　―天平の夢とロマン―』
（日本の美と文化　Art japanesque　3）
『龍門・鞏県石窟』
『世界の歴史』二四　―三～四世紀の世界
移動と定住―（週刊朝日百科）
『世界の歴史』三四　―七～八世紀の世界
暮らしと宗教―（週刊朝日百科）
『毒の文化史　―新しきユマニテを求めて―』
［新版］
『真珠の文化史』

第二部　正倉院文化の源流（一三五―二四三頁）
［座談会司会］
宝物ノート（二四五―二五九頁）［執筆］
田辺三郎助著　美術出版社　一九八二年三月　二七一頁
講談社　一九八二年三月　一七一頁
久野健［ほか］著　六興出版　一九八二年五月
図版八一枚、四一、［五］頁
朝日新聞社　一九八九年五月　D一二九―D一六〇頁
［責任編集、執筆：（本文）「移動の民の見果てぬ夢」・
「平城から洛陽へ　―定住した遊牧民拓跋―」・「漂泊者
の世界　―思想と技芸の運び屋―」、図版解説（一部）］
朝日新聞社　一九八九年七月　D一九三―D二二四頁
［責任編集、執筆：（本文）「国際都市長安の宗教事情」・
「文化複合体としての宗教」・「極楽とパラダイス」、図版
解説（一部）］
山崎幹夫著　学生社　一九九〇年三月　三三四頁
学生社　一九九〇年三月　二二〇頁［山崎幹夫氏・坂口

『巡礼の構図　―動く人びとのネットワーク―』
(Books in-form)
昌明氏との鼎談］
山折哲雄［ほか］著　NTT出版　一九九一年三月
二九四頁

『藤原鎌足』［新装版］
梅原猛　田辺昭三著　思索社　一九九二年三月
三四五頁、図版

訳書

『中国の科学と文明』第一巻　―序篇―
ジョセフ・ニーダム著　礪波護［ほか］訳　思索社
一九七四年七月　xxii、三五九頁、図版、地図

『考古学探検家スタイン伝』上
J.ミルスキー著　伊吹寛子　瀧梢訳　六興出版
一九八四年七月　四三八頁、図二枚

『考古学探検家スタイン伝』下
J.ミルスキー著　伊吹寛子　瀧梢訳　六興出版
一九八四年九月　三七六、一一頁、図一枚

『王観堂静安先生校注本「長春眞人西遊記」』
国際仏教学大学院大学　二〇〇二年二月　五、一九一頁

論文

玉置山紀行
『大和文化研究』四巻四号　一九五七年四月

実原寺の聖徳太子像［図版解説］　四九―五三頁　『大和文化研究』　四巻四号　一九五七年四月　六七頁

天洲寺聖徳太子像　―聖徳太子像研究のうち（一）―　『美術史』　二九号　一九五八年七月　一五―二三頁

東大寺月光菩薩立像（法華堂）　『国華』　第八〇〇号　一九五八年十一月　三七九―三八〇頁

元興寺極楽坊聖徳太子像　―聖徳太子像研究のうち（二）―　『仏教芸術』　三九号　一九五九年六月　二四―三九頁

興福寺関係文献目録　『仏教芸術』　四〇号　一九五九年九月　一三五―一三八頁

淡路南淡町正福寺の薬師如来坐像　『大和文化研究』　五巻一号　一九六〇年一月　三一―三二頁

道明寺聖徳太子像　―聖徳太子像研究の中―　『文化史論叢』（奈良国立文化財研究所学報　第八冊）　奈良国立文化財研究所編　吉川弘文館　一九六〇年二月　二九―五三頁

［小林剛氏との共著］

円城寺南無仏太子像　―聖徳太子像研究のうち（四）―　『国華』　第八一六号　一九六〇年三月　一〇二―一〇八頁

元興寺極楽坊聖徳太子孝養立像の修理　『大和文化研究』　五巻四号　一九六〇年四月　三四―三六頁

清水隆慶について　『大和文化研究』　五巻五号　一九六〇年五月

X線透視により発見された五輪塔　二〇―三三頁　『大和文化研究』　五巻一〇号　一九六〇年十月　三六―三八頁

金光寺阿弥陀如来像　『大和文化研究』　五巻一二号　一九六〇年十二月　四一―四二頁

仏光寺聖徳太子像　―聖徳太子像研究のうち（六）―　『美術史』　三九号　一九六一年一月　七八―九〇頁

当麻寺関係文献目録　『仏教芸術』　四五号　一九六一年一月　一一八―一一九頁

当麻寺文化財目録　『仏教芸術』　四五号　一九六一年一月　一一九―一二〇頁

蟹満寺本尊考　―造仏所研究のうち（一）―　『美術史』　四一号　一九六一年十月　一四―二九頁

金峯山寺の聖徳太子像　『MUSEUM』　一二四号　一九六一年七月　一八―二一頁

尾道浄土寺とその聖徳太子像　―聖徳太子像研究のうち（五）―　『大和文化研究』　七巻二号　一九六二年二月　一―二二頁

般若寺文殊菩薩像について　『MUSEUM』　一三三号　一九六二年四月　一一―一五頁

三千院阿弥陀三尊坐像　『国華』　第八四八号　一九六二年十一月　五四三―五四七頁

大蔵寺地蔵菩薩坐像　『MUSEUM』一四一号　一九六二年十二月　一九―二二頁

人物埴輪　―日本原始美術への照明　四―　『美術手帖』二一九号　一九六三年四月　一一九―一二五頁

浄瑠璃寺　―新・古寺巡礼　八六―　『MUSEUM』一四六号　一九六三年五月　二九―三二頁

晩期土偶　『国華』第八五五号　一九六三年六月　三七―三八頁

実忠和尚覚書　―造仏所研究のうち（二）―　『美術史』四九号　一九六三年六月　一一―二三頁

［筒井寛秀氏との共著（実際は首尾全文杉山執筆）］

一仏像の背景　―絹の道と琥珀の道と―　『MUSEUM』一四九号　一九六三年八月　三二―三四頁

東大寺実忠の造立した仏像　―造仏所研究のうち（三）―　『大和文化研究』八巻九号　一九六三年九月　一―一七頁

頭塔（ずとう）　―天平時代の石造浮彫の一例―　『古美術』三号　一九六三年十月　一二一―一二六頁

インド美術の文献について　『MUSEUM』一五三号　一九六三年十二月　二九―三三頁

インド古代美術展　『MUSEUM』一五四号　一九六四年一月　二三頁

サールナートの仏立像　『国華』第八六三号　一九六四年二月　三四―四〇頁

重要文化財衆宝王菩薩立像　『MUSEUM』一六二号　一九六四年九月

聖徳太子像と庶民信仰　一〇―一一頁
『古美術』　七号　一九六五年一月　二七―四六頁

聖徳太子信仰とその造像　『仏教史学』　第一二巻第一号　一九六五年二月
一七―四〇頁

（再録）　『太子信仰』（民衆宗教史叢書　第三二巻）蒲池勢至編
雄山閣出版　一九九九年十月　九三―一一七頁

伝香寺裸地蔵菩薩像について　『MUSEUM』　一六七号　一九六五年二月
二三―三四頁

叡尊　『国文学　―解釈と鑑賞―』　三〇巻五号
一九六五年四月　一六五―一八三頁

絹の道遺跡　―中近東の隊商都市―　『古美術』　一四号　一九六六年八月　一一三―一三〇頁

清水隆慶遺聞　『MUSEUM』　一九一号　一九六七年二月
二八―三四頁

メソポタミヤの美術　『月刊文化財』　四四号　一九六七年五月　三六―四一頁

仏伝図のある装飾石版　『古美術』　一八号　一九六七年七月　九二―九六頁

聖武天皇と大仏造立　『古美術』　二一号　一九六八年三月　四一―六〇頁

中国の仏像彫刻　―古式小金銅仏像をめぐって―　『MUSEUM』　二一一号　一九六八年十月
一九―二六頁

インド美術の一面　―仏像彫刻の誕生まで―　『月刊文化財』　六二号　一九六八年十一月

（新収品研究・紹介）ガンダーラ彫刻の二、三の問題
—供養者頭部を中心に—　三〇—三四頁　『MUSEUM』二一七号　一九六九年四月
草原とオアシスの秘宝への招待
—とくにステップロードをめぐって—　一八—二六頁　『三彩』二四四号　一九六九年五月　二一—二九頁
執金剛神像考　『仏教芸術』七四号　一九七〇年二月　九—二六頁
錠光仏本生図（ディパンカーラジャータカ）と施无畏印の起源について
—インド仏教に見られる西アジア的要素の研究　一—　『MUSEUM』二三二号　一九七〇年七月　四—一三頁
釈迦伝とその造形表現（釈迦物語）　『古美術』三二号　一九七〇年十二月　三七—六八頁
新資料紹介　六二　—カシュミール金銅仏像の一例—　『古美術』三三号　一九七一年三月　八五—八六、九二—九四頁
薬猟考　『朝鮮学報』六〇号　一九七一年七月　九五—一一八頁
ソヴィエト考古、美術見聞記　『仏教芸術』八二号　一九七一年十一月　八九—九四頁
東アジア圏のなかの日本文化・美術の位置
—高松塚古墳遺物の理解のために—　『古美術』三七号　一九七二年六月　五三—六〇頁
カシュミール金銅仏立像　『仏教芸術』八六号　一九七二年七月　七九—八〇頁
パルティア王宝冠考　『オリエント』一五巻二号　一九七三年三月　二七—四〇頁

中国人の美意識
―中国出土文物展の特性とその問題点―
『古美術』　四二号　一九七三年九月　七九―八四頁

神宮御神宝類の世界史的背景
『伊勢神宮』（日本人のための日本再発見　一）
樋口清之［ほか］編　旭屋出版　一九七三年十月
七一―八九頁

飛翔の系譜
『THE EXECUTIVE』　三号　全日空［一九七三年］
四―六頁

Some problems of Parthian kings' crowns
Orient, vol. 9, 1973, pp. 31 - 41

弥勒菩薩をめぐる諸問題
―インド仏教に見られる西アジア的要素の研究　二―
『MUSEUM』　二九三号　一九七五年八月
一二―二六頁

いわゆる〝ガラスの鏡〟について
『オリエント学論集　―三笠宮殿下還暦記念―』
日本オリエント学会編　講談社　一九七五年十二月
二一四―二二二頁

仏像の起源および発達
『新版仏教考古学講座』　第四巻　―仏像―　石田茂作
監修　雄山閣出版　一九七六年二月　五―四一頁

顕教系図像仏
『新版仏教考古学講座』　第四巻　―仏像―　石田茂作
監修　雄山閣出版　一九七六年二月　七五―八九頁

高僧の像
『新版仏教考古学講座』　第四巻　―仏像―　石田茂作

仏伝文学の造形的表現　監修　雄山閣出版　一九七六年二月　一四三―一五〇頁
『新版仏教考古学講座』第四巻　―仏像―　石田茂作
監修　雄山閣出版　一九七六年二月　一七五―一八五頁
『新版仏教考古学講座』第四巻　―仏像―　石田茂作
監修　雄山閣出版　一九七六年二月　二四九―二五七頁
『三彩』三四九号　一九七六年九月　四八―五二頁

主要文献解題

西アジア発掘記　一
―プレリュード（序曲）ロンドン通信―　『三彩』三五〇号　一九七六年十月　一一八―一二一頁
西アジア発掘記　二　―ハリメジャン通信　一―　『三彩』三五一号　一九七六年十一月　八四―八七頁
西アジア発掘記　三　―ハリメジャン通信　二―　『三彩』三五二号　一九七六年十二月　七六―七九頁
西アジア発掘記　四　―ベヒストゥン通信―　『三彩』三五三号　一九七七年一月　八五―八八頁
西アジア発掘記　五　―ケルマンシャー通信―　『三彩』三五六号　一九七七年四月　九八―一〇三頁
西アジア発掘記　六　―イラン南北記―　『MUSEUM』三一四号　一九七七年五月　四―一六頁
ヘレニズム・ローマ期のシリア美術について
―文献解題的意図のもとに―　『三彩』三五七号　一九七七年五月　八二―八五頁
西アジア発掘記　七　―テル・サラサート通信―　『三彩』三五八号　一九七七年六月　八六―八九頁
西アジア発掘記　八完
―テル・サラサート通信回顧―　『大法輪』第四四巻七号　一九七七年七月　五―一一頁
阿弥陀浄土のふる里［カラー口絵写真・文］　『大法輪』第四四巻七号　一九七七年七月
極楽浄土の起源および展開の諸問題（一）

極楽浄土の起源および展開の諸問題（二）	五二―六一頁	『大法輪』	第四四巻八号　一九七七年八月
極楽浄土の起源および展開の諸問題（三）	五八―六七頁	『大法輪』	第四四巻九号　一九七七年九月
極楽浄土の起源および展開の諸問題（四）	八一―八九頁	『大法輪』	第四四巻一〇号　一九七七年十月
極楽浄土の起源および展開の諸問題（五）	九三―一〇一頁	『大法輪』	第四四巻一一号　一九七七年十一月
極楽浄土の起源および展開の諸問題（六）	九六―一〇五頁	『大法輪』	第四四巻一二号　一九七七年十二月
Photogrammetic survey at Taq - i - Bustan 1976 [in collaboration with FUKAI Shinji and KIMATA Keizō]	九六―一〇五頁	*Orient*, vol. 13, 1977, pp. 61 - 65	
シルクロードと仏教（上）［金岡秀友氏・井本英一氏との鼎談］		『大法輪』	第四五巻一号　一九七八年一月
シルクロードと仏教（下）［金岡秀友氏・井本英一氏との鼎談］	二二―四五頁	『大法輪』	第四五巻二号　一九七八年二月
ガラス研究文献管見	四八―七〇頁	『MUSEUM』	三二四号　一九七八年三月

タークーイ・ブスターンにおける写真測量
（一九七六年度）［深井晋司　木全敬蔵　共著］
宝慶寺石仏研究序説
二七―三四頁
『東洋文化研究所紀要』　第七六冊　一九七八年三月
一―七頁、図版三枚

極楽浄土の起源および展開の諸問題（七）
『東京国立博物館紀要』　一三号　一九七八年三月
二四一―二九一頁

極楽浄土の起源および展開の諸問題（八）
『大法輪』　第四五巻三号　一九七八年三月
五六―六三頁

極楽浄土の起源および展開の諸問題（九）
『大法輪』　第四五巻四号　一九七八年四月
六〇―六九頁

共命鳥についての一考察
『大法輪』　第四五巻五号　一九七八年五月
七〇―七九頁

阿弥陀浄土の起源を探る
『オリエント学インド学論集　―足利惇氏博士喜寿記念―』
日本オリエント学会編　国書刊行会　一九七八年五月
二三九―二五七頁

仏教美術にみる東西交流
―Taq-i-Bustan 洞と西方極楽浄土について―
『浅草寺仏教文化講座』　第二二集　塩入亮達編　浅草寺
一九七八年七月　一一〇―一四七頁

大仏造立前期の諸問題
『続　シルクロードと仏教文化』　樋口隆康編
東洋哲学研究所　一九八〇年四月　四一―七〇頁
『MUSEUM』　三五〇号　一九八〇年五月

―三月堂レベルでの多臂像の系譜―　一九―二九頁　『国華』第一〇三三号　一九八〇年五月　四四―四八頁

タ―ク・イ・ブスターン大洞の図像学的意義　『歴史への招待』七　日本放送出版協会　一九八〇年五月　一三三―一八四頁

東大寺大仏建立［堺屋太一氏・石野亨氏との共著］　『みずゑ』九一一号　一九八一年二月　三五―四九頁

彼岸の造営　―初期敦煌のコスモロジー―　『大法輪』第四八巻八号　一九八一年八月　七六―八二頁

［鄧健吾氏・前田耕作氏との座談会］

南伝仏教は小乗か　『MUSEUM』三六八号　一九八一年十一月　三一―三六頁

―海のシルク・ロードと仏教東漸―

正倉院宝物の南海要素覚書　『別冊歴史読本　―シルクロードの夢と冒険の記録―』新人物往来社　一九八二年一月　三八―四四頁

敦煌発見秘話〈スタイン・ペリオ・大谷探検隊〉　『遣唐使時代の日本と中国　―日本・中国文化交流シンポジウム―』江上波夫編　小学館　一九八二年四月　一七三―二〇二頁

正倉院と東西文化交流　『龍門・鞏県石窟』久野健・杉山二郎［ほか］著　六興出版　一九八二年五月　二七―四一頁

龍門石窟と鞏県石窟諸像における断片的考察　『大法輪』第五〇巻七号　一九八三年七月　四八―五九頁

―石窟寺院のルーツをめぐって―

仏教伝来を再考する［鎌田茂雄氏との対談］

仏教伝来を再考する（続）［鎌田茂雄氏との対談］　『大法輪』　第五〇巻八号　一九八三年八月　五八―六九頁

インド古代彫刻の断片的考察　『三彩』　四三九号　一九八四年四月　五六、六五頁

東京国立博物館特別展「インド古代彫刻展」　『月刊文化財』　二四七号　一九八四年四月　三四―三七頁

人類の危機と宗教　『大法輪』　第五一巻四号　一九八四年四月　三八―四六頁

インド美術理解のために　―インド古代彫刻展をどうみるか―　『大法輪』　第五一巻五号　一九八四年五月　六〇―六九頁

鷗外と李太郎　―戯曲作品をめぐって―　『悲劇喜劇』　三八巻三号　一九八五年三月　一九―二三頁

『浄土和讃』と露伴　『現代思想』　第一三巻七号　一九八五年六月　二五二―二五九頁

インドで考えたことども（上）　『大法輪』　第五二巻七号　一九八五年七月　二二―三一頁

インドで考えたことども（中）　『大法輪』　第五二巻八号　一九八五年八月　三八―四七頁

「シルクロードの遺宝」展への誘い　『月刊文化財』　二六三号　一九八五年八月　四―一三頁

インドで考えたことども（下）　『大法輪』　第五二巻九号　一九八五年九月

ディオニソス信仰・葡萄酒の東方伝播
―ガンダーラ彫像への影響―

ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一
―アウトローの仏教集団―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　二
―遊侠の徒と遊行者と―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　三
―伎楽・幻人　上―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　四
―伎楽・幻人　下―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　五
―幻術を演ずる僧侶たち―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　六
―道士と密教僧の魔法競べ―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　七
―鉢は飛ぶ、ＵＦＯの如く―
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　八

四四―五三頁
『オリエント学論集　―三笠宮殿下古稀記念―』
日本オリエント学会編　一九八五年十二月
一九一―二〇四頁
『ユリイカ』　一八巻一号　一九八六年一月
二三二―二三七頁
『ユリイカ』　一八巻二号　一九八六年二月
二六〇―二六五頁
『ユリイカ』　一八巻三号　一九八六年三月
二二六―二三一頁
『ユリイカ』　一八巻四号　一九八六年四月
二四〇―二四五頁
『ユリイカ』　一八巻五号　一九八六年五月
二五八―二六三頁
『ユリイカ』　一八巻六号　一九八六年六月
二二六―二三一頁
『ユリイカ』　一八巻七号　一九八六年七月
二六四―二六九頁
『ユリイカ』　一八巻八号　一九八六年八月

—飛鉢法のあれこれ—
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　九
—魔法使い、次々と登場—
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一〇
—ジプシーと傀儡子と—
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一一
—傀儡子と山窩とジプシーと—
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一二
—朝鮮のジプシー楊水尺考—
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一三
—水草を逐うと木人を舞すと—
ユーラシア精神史考（一）
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一四
—傀儡戯のルーツと発達を辿る—
ユーラシア精神史考（二）
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一五
—遊女と木人と散所と—
ユーラシア精神史考（三）
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一六

二二八—二三三頁
『ユリイカ』　一八巻九号　一九八六年九月
二七二—二七七頁
『ユリイカ』　一八巻一一号　一九八六年十月
二四八—二五三頁
『ユリイカ』　一八巻一二号　一九八六年十一月
二四〇—二四五頁
『ユリイカ』　一八巻一三号　一九八六年十二月
二一八—二二三頁
『ユリイカ』　一九巻一号　一九八七年一月
二五六—二六一頁
『學鐙』　八四巻一号　一九八七年一月　五〇—五五頁
『ユリイカ』　一九巻二号　一九八七年二月
二四〇—二四五頁
『學鐙』　八四巻二号　一九八七年二月　四六—五一頁
『ユリイカ』　一九巻三号　一九八七年三月
二七二—二七七頁
『學鐙』　八四巻三号　一九八七年三月　五〇—五五頁
『ユリイカ』　一九巻四号　一九八七年四月

—今様・田歌・神歌のルーツ—
ユーラシア精神史考（四）　二四〇—二四五頁　『學燈』八四巻四号　一九八七年四月　五〇—五五頁
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一七　『ユリイカ』一九巻五号　一九八七年五月
—勧進聖と説教師と雑芸—　二四〇—二四五頁
ユーラシア精神史考（五）　『學燈』八四巻五号　一九八七年五月　五〇—五五頁
ユーラシア世界の漂泊彷徨者たち　一八　『ユリイカ』一九巻六号　一九八七年六月
—ジプシー研究覚書—　二五六—二六一頁
ユーラシア精神史考（六）　『學燈』八四巻六号　一九八七年六月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（七）　『學燈』八四巻七号　一九八七年七月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（八）　『學燈』八四巻八号　一九八七年八月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（九）　『學燈』八四巻九号　一九八七年九月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（一〇）　『學燈』八四巻一〇号　一九八七年十月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（一一）　『學燈』八四巻一一号　一九八七年十一月　五〇—五五頁
ユーラシア精神史考（一二）　『學燈』八四巻一二号　一九八七年十二月　四八—五三頁
エジプトの風土と芸術　『古美術』八六号　一九八八年四月　一〇—一二、三七—四一頁
粘土文化の系譜　『世界の歴史　五　—紀元前の世界　石と土の奇蹟—』

シンボルになった動物

（週刊朝日百科）朝日新聞社　一九八八年十二月
E一二―E一五頁

煙と光の情報通信

『世界の歴史　二四　―三～四世紀の世界　牧畜と農耕
（動植物の利用）―』（週刊朝日百科）朝日新聞社
一九八九年五月　E一三七頁

雪国の正倉院　―北方文化博物館をめぐって―

『世界の歴史　三五　―七～八世紀の世界　文字と道
（伝えあう「こころ」）―』（週刊朝日百科）朝日新聞社
一九八九年七月　E二〇一頁

J・ストルツィゴウスキー著
『アルタイ＝イランと民族移動』の今日的意味

『コシヒカリ伝説　―雪国の正倉院とコメ文明―』
「日本学」編集室企画　名著刊行会　一九八九年十一月
一四三―一四八頁

ガラスと香料と航海と

『オリエント学論集　―日本オリエント学会創立三十五
周年記念―』日本オリエント学会編　刀水書房
一九九〇年七月　二五五―二七一頁

旅と巡礼の原点を求めて
［山折哲雄氏・大澤真幸氏との座談会］

『道のアジア史　―モノ・ヒト・文化の交流―』
鶴見良行　村井吉敬編　同文館出版株式会社
一九九一年一月　一二一―一四四頁

『巡礼の構図　―動く人びとのネットワーク―』
（Books in- form）山折哲雄［ほか］著　NTT出版

（再録）

化粧への文化史的アプローチ　一九九一年三月　九―七二頁

中国・法門寺地宮珍宝を訪ねて（上）　『こころの旅　―山折哲雄対話集―』　山折哲雄　現代書館　一九九七年十一月　二〇五―二七八頁

中国・法門寺地宮珍宝を訪ねて（中）　『imago』　第二巻第四号　一九九一年四月　一二七―一三三頁

中国・法門寺地宮珍宝を訪ねて（下）　『大法輪』　第五九巻九号　一九九二年九月　八八―九五頁

鳥居龍蔵とゲーテと南方熊楠と　『大法輪』　第五九巻一〇号　一九九二年十月　五六―六三頁

（講演）鎌倉新仏教と密教　―重源から叡尊へ―　『大法輪』　第五九巻一一号　一九九二年十一月　五四―六二頁

天部像の系譜についての一考察　『學鐙』　九〇巻七号　一九九三年七月　八―一五頁

東西旅行記往来　連載第一回　―食人肉風習の噂話―　『密教学研究』　二六号　一九九四年三月　一―三一頁

東西旅行記往来　連載第二回　―噂はうわさを呼ぶ―　『仏教大学仏教学会紀要』　二号　一九九四年三月　九―三八頁

『フォークロア』　一号　一九九四年三月　一三八―一四三頁

『フォークロア』　二号　一九九四年五月　一一六―一二一頁

東西旅行記往来　連載第三回
—羊羔についての旅行家の知見—
『フォークロア』　三号　一九九四年七月
一三三—一三七頁

東西旅行記往来　連載第四回
—幽霊の正躰見たり枯尾花—
『フォークロア』　四号　一九九四年九月
一二二—一二七頁

観音菩薩の誕生　—西アジアの基層文化から—
『しにか』　第五巻第一〇号　一九九四年十月
三一—三七頁

東西旅行記往来　連載第五回
—ハイエナとジャッカルと—
『フォークロア』　五号　一九九四年十一月
一二六—一三二頁

東西旅行記往来　連載第六回
—胡嶠初めて西瓜を喰った事—
『フォークロア』　六号　一九九五年一月
一一八—一二三頁

東西旅行記往来　連載第七回
—奇肱国の飛車について—
『フォークロア』　七号　一九九五年三月
一〇〇—一〇五頁

日本のなかの西アジア的要素
『季刊考古学』　六一号　一九九七年十一月
三四—三九頁

東方瑠璃光浄土についての一考察
—文化論的アプローチから—
『国際仏教学大学院大学研究紀要』　第一号
一九九八年三月　一〇七—一五〇頁

當麻曼荼羅考
—浄土変相図の日本流入と展開の一考察—
『国際仏教学大学院大学研究紀要』　第二号
一九九九年三月　八三—一三六頁

傀儡子の系譜
『アジアの人形芸』（遊学叢書　六）諏訪春雄編

森鷗外のインド学・仏教学

寶慶寺石佛龕像の研究

西域美術の名品　―大谷探検隊将来品を中心に―

聖徳太子信仰の謎

寶慶寺石佛龕像再考

王観堂静安先生校注本

「長春真人　西遊記」訳注（続き）

シルクロードの西・東

―石工の源流とその展開―［講演］

銅造盧舎那大仏造立に伴う公害問題

勉誠出版　一九九九年十二月　一三一―一五八頁

『国際仏教学大学院大学研究紀要』第三号

二〇〇〇年三月　六九―一二三頁

『国際仏教学大学院大学研究紀要』第四号

二〇〇一年三月　二一―九二頁

『文化遺産』一一号　二〇〇一年四月　四四―四七頁

『大法輪』第六八巻一二号　二〇〇一年十一月

一二四―一二七頁

『国際仏教学大学院大学研究紀要』第五号

二〇〇二年三月　一―五三頁

『国際仏教学大学院大学研究紀要』第六号

二〇〇三年三月　一―五七頁

『日本の石仏』第一〇五号　二〇〇三年三月

四―二九頁

『環境問題と仏教　―環境倫理構築の仏教学的可能性とその諸問題―』（平成一〇年度～平成一三年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書）研究代表：津田眞一　二〇〇三年六月　一三―一六頁

随筆・書評・小文

浄瑠璃寺地蔵菩薩立像（今月の陳列品から）　『国立博物館ニュース』　一八二号　一九六二年七月
林良一著 シルクロード［新刊紹介］　『国立博物館ニュース』　一八六号　一九六二年十一月
研究のしるべ 今年の美術関係書から　『国立博物館ニュース』　一八七号　一九六二年十二月
―ある友への手紙―
如意輪観音像（今月の陳列品から）　『国立博物館ニュース』　一八九号　一九六三年二月
E・マッキューン著 斎藤襄治訳「朝鮮美術図史」　『MUSEUM』　一四六号　一九六三年五月　三三頁
［書評］
解説　［スライド］『奈良　―古寺の旅―』　美術出版社編　美術出版社サービスセンター　一九六三年九月
仏塔浮彫　―三世紀・ナーガルジュナコンダ―（写真）　『国立博物館ニュース』　一九九号　一九六三年十二月
座談会 われら博物館員［香取忠彦氏ほかとの座談］　『国立博物館ニュース』　二〇一号　一九六四年二月
研究のしるべ 芸術学関係書をめぐって　『国立博物館ニュース』　二〇二号　一九六四年三月
―ある対話から―
日本美術史入門書について（鑑賞の手引き）　『国立博物館ニュース』　二〇九号　一九六四年十月
仏師へのアプローチ　上（作家研究の手引き）　『国立博物館ニュース』　二一四号　一九六五年三月
仏師へのアプローチ　中（作家研究の手引き）　『国立博物館ニュース』　二一五号　一九六五年四月
仏師へのアプローチ　下（作家研究の手引き）　『国立博物館ニュース』　二一六号　一九六五年五月

仏師へのアプローチ（補遺）（作家研究の手引き）　『国立博物館ニュース』二一七号　一九六五年六月
テル・サラサート通信　『国立博物館ニュース』二二三号　一九六五年十二月
西アジア博物館のいくつか　『国立博物館ニュース』二二九号　一九六六年六月
H・ゼードルマイヤー著　石川公一、阿部公正訳　『MUSEUM』一八四号　一九六六年七月　三三頁
「中心の喪失　―危機に立つ近代芸術―」［書評］
動物形彩文壺　『国立博物館ニュース』二四〇号　一九六七年五月
アッラート女神浮彫　『国立博物館ニュース』二四〇号　一九六七年五月
把手つき壺　『国立博物館ニュース』二四〇号　一九六七年五月
メソポタミアの遺跡　『国立博物館ニュース』二四〇号　一九六七年五月
深井晋司著「ペルシア古美術研究」［書評］　『MUSEUM』二〇六号　一九六八年五月
三三―三四頁
写真　菩薩頭部　『国立博物館ニュース』二五六号　一九六八年九月
ハーリティ坐像　『国立博物館ニュース』二六二号　一九六九年三月
写真　壁画断片　『国立博物館ニュース』二六四号　一九六九年五月
ピタルコーラ見ざるの記　『国立博物館ニュース』二七五号　一九七〇年四月
『今西竜著作集』全四巻［書評］　『朝鮮学報』五七号　一九七〇年十月　五八―六二頁
東洋文化と太田先生　『木下杢太郎　―逝去二十五周年記念講演―』
（杢太郎記念館シリーズ　三号）太田慶太郎編
杢太郎記念館　一九七一年二月　一―二一頁

標的

古銭（大谷探検隊将来品）

写真　アッシュール、ナシルパル二世の獅子狩図浮彫

写真　サナトルク王彫像

石造菩薩立像

（座談会）木下杢太郎［平川祐弘氏ほかとの座談］

（再録：「木下杢太郎　―医学と文学をめぐって―」）

松田壽男博士古稀記念出版委員会編

『東西文化交流史』［書評］

平山郁夫のシルク・ロード（秘蔵　三二八）

オリエント文明の十字路　古代シリア展案内

写真　家族宴楽図

オリエント文明の十字路　古代シリア展のみどころ

『近世化への挑戦　―柳田国男の遺産―』

ロナルド・A・モース著

『国立博物館ニュース』二八六号　一九七一年三月

『国立博物館ニュース』二九八号　一九七二年三月

『国立博物館ニュース』三一一号　一九七三年四月

『国立博物館ニュース』三二二号　一九七四年三月

『国立博物館ニュース』三三九号　一九七五年八月

『皮膚科の臨床』一七巻八号　一九七五年八月

五六五―五八〇頁

『木下杢太郎と熊本―「五足の靴」天草を訪ねる―』

第一〇一回日本皮膚科学会総会編著　熊本日日新聞社

二〇〇三年六月　一八三―二四三頁

『オリエント』一八巻一号　一九七五年八月

一四三―一四七頁

『芸術新潮』二七巻八号　一九七六年六月

一一〇―一一八頁

『国立博物館ニュース』三六〇号　一九七七年五月

『国立博物館ニュース』三六一号　一九七七年六月

『国立博物館ニュース』三六一号　一九七七年六月

『太陽』一七一号　一九七七年六月　一八六頁

岡田陽一　山野博史訳［書評］
阿弥陀浄土のふる里［カラー口絵の写真・文］
重文　金錯狩猟文銅筒
特別展観「東洋古代ガラス」予告
モスク用のエナメルガラス（今月の陳列品）
特別展観　東洋古代ガラスへの誘い
―或るイランの友人へ―
董欽造金銅阿弥陀仏一具
或る博物館巡り（一）
或る博物館巡り（二）
或る博物館巡り（三）
或る博物館巡り（四）
或る博物館巡り（五）
或る博物館巡り（六）
吉村怜・吉村ちさ子著「中国美術の旅」
―学術的なガイドブックとして―［書評］
サーカス事始め
インドネシア古代美術展について

『大法輪』第四四巻七号　一九七七年七月　五―一一頁
『国立博物館ニュース』三六四号　一九七七年九月
『国立博物館ニュース』三六八号　一九七八年一月
『国立博物館ニュース』三六九号　一九七八年二月
『国立博物館ニュース』三六九号　一九七八年二月
『国立博物館ニュース』三八三号　一九七九年四月
『国立博物館ニュース』三九八号　一九八〇年七月
『国立博物館ニュース』三九九号　一九八〇年八月
『国立博物館ニュース』四〇〇号　一九八〇年九月
『国立博物館ニュース』四〇一号　一九八〇年十月
『国立博物館ニュース』四〇二号　一九八〇年十一月
『国立博物館ニュース』四〇三号　一九八〇年十二月
『みずゑ』九一一号　一九八一年二月
一一〇―一一一頁
『別冊　新評』第一四巻第一号　一九八一年四月
八八―九一頁
『国立博物館ニュース』四〇八号　一九八一年五月

大日如来像（今月の陳列品）　『国立博物館ニュース』　四〇九号　一九八一年六月
インドネシア古代美術展への招待　『国立博物館ニュース』　四〇九号　一九八一年六月
白瑠璃碗　『国立博物館ニュース』　四一四号　一九八一年十一月
万葉の女性たち　『井上靖歴史小説集月報』　七　岩波書店　一九八一年十二月　一―四頁
正倉院のガラス器（鑑賞と研究　正倉院の宝物　⑩）　『国立博物館ニュース』　四一八号　一九八二年三月
金銅菩薩立像　『国立博物館ニュース』　四二四号　一九八二年九月
「ペルシア秘宝展」の教える真贋問題　『芸術新潮』　三三巻一〇号　一九八二年十月　四八頁
「印度に於ける礼拝像の形式研究」解説　『印度に於ける礼拝像の形式研究』逸見梅栄　東京美術　一九八二年十一月
―逸見梅栄博士の人と業と―　［東洋文庫論叢　第二一　の複製］四五三―四六三頁
塔婆型舎利容器　『国立博物館ニュース』　四二九号　一九八三年二月
解説　『眩人』（中公文庫）松本清張　中央公論社　一九八三年四月　四八九―四九五頁
［一九九八年六月改版］
青釉刻文大壺（今月の陳列品から）　『国立博物館ニュース』　四三三号　一九八三年六月
船人物群像　『国立博物館ニュース』　四三九号　一九八三年十二月
インド古代彫刻展への招待　―或る対話から―　『国立博物館ニュース』　四四二号　一九八四年三月
仏三尊像（今月の陳列品）　『国立博物館ニュース』　四四三号　一九八四年四月

インド古代彫刻展　鑑賞　［ナラヤン氏との共著］　『国立博物館ニュース』　四四三号　一九八四年四月
加彩　芸人（説唱俑）　『国立博物館ニュース』　四五五号　一九八五年四月
シルクロードの遺宝展　予告　『国立博物館ニュース』　四五八号　一九八五年七月
彩画陶器（今月の陳列品）　『国立博物館ニュース』　四五九号　一九八五年八月
シルクロードの遺宝展　―故ルコーニン氏への手紙―　『国立博物館ニュース』　四五九号　一九八五年八月
ロドグナ像（今月の陳列品）　『国立博物館ニュース』　四六〇号　一九八五年九月
王侯頭部　『国立博物館ニュース』　四六〇号　一九八五年九月
納骨器　『国立博物館ニュース』　四六〇号　一九八五年九月
戦士の像　『国立博物館ニュース』　四六〇号　一九八五年九月
解説　『新増東国輿地勝覧』　第三巻　国書刊行会　一九八六年二月　巻末一―三頁
如来坐像　『国立博物館ニュース』　四七九号　一九八七年四月
解説　『幸福のアラビア探険記』　トーキル・ハンセン著　伊吹寛子訳　六興出版　一九八七年四月　三八一―三九二頁
日タイ修好一〇〇周年記念タイ美術展観賞のために　―或る大使への手紙―　『国立博物館ニュース』　四八三号　一九八七年八月
観音菩薩立像（今月の陳列品）　『国立博物館ニュース』　四八四号　一九八七年九月
如来立像立像　『国立博物館ニュース』　四八四号　一九八七年九月

菩薩形立像　『国立博物館ニュース』四八四号　一九八七年九月
五〇〇〇年の時を超えて　ドイツ民主共和国ベルリン博物館蔵大エジプト展への招待状　『国立博物館ニュース』四九一号　一九八八年四月
大エジプト展への招待　『うえの』三四九号　上野のれん会　一九八八年五月　一八―二〇頁
空中遊戯のコスモロジー　［松田修氏との座談］　『ｉｓ』四五号　ポーラ文化研究所　一九八九年九月　一一―二三頁
（再録）　『松田修著作集』第七巻　右文書院　二〇〇三年二月　五七六―六〇四頁
シルクロード幻想　―シルクロードの遺跡を訪ねて―　『富士美術館だより』二三号　一九九一年二月　三―六頁
［講演筆記］
江上波夫先生の文化勲章を享け給えるを祝するの辞　『オリエント』三四巻二号　一九九二年三月　ｉ―ｖｉ頁
仏教の源流　［「下町説法」講演筆記］　『柴又』一〇一号　一九九二年七月　二二―三一頁
江上先生の人と業と　『人間・江上波夫　―江上波夫文化勲章受章記念［シルクロードの輝き］遺産と創造の立体展―』　シルクロード立体展実行委員会　一九九二年　一七―二〇頁
博物館での東洋美術遍歴　『MUSEUM』五〇〇号　一九九二年十一月　二八―三二頁

帝釋堂の木彫美　―柴又帝釋天と庚申信仰―
［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一〇七号　一九九四年一月　一〇―二三頁

実録「柴又帝釈天」を監修して　『柴又』　一〇八号　一九九四年四月　三〇―三九頁

帝釈天のルーツを訪ねて［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一〇九号　一九九四年七月　一六―二六頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（一）―祝融子の跳梁―　『鷹陵』　一四一号　一九九四年七月　二六―三二頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（二）
―東都隅田川と西京の加茂川―　『鷹陵』　一四二号　一九九四年十月　二六―三二頁

法華伝道への道（一）［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一一〇号　一九九四年十月　一六―二六頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（三）
―杢太郎の「京阪見聞録」から―　『鷹陵』　一四三号　一九九五年一月　二六―三二頁

法華伝道への道（二）［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一〇一号　一九九五年一月　二八―三五頁

解説　『白村江　―古代日本の敗戦と薬師寺の謎―』鈴木治　学生社　一九九五年二月　二二七―二四五頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（四）
―洛西島原悲歌、荷風の「十年振」から―　『鷹陵』　一四四号　一九九五年三月　二六―三二頁

講演筆記　『和辻・児島と杢太郎』（杢太郎会シリーズ　一〇号）　杢太郎会　一九九五年三月　一―二二頁

法華伝道への道（三）［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一一二号　一九九五年四月　二四―三三頁

東西文化比較往来　一　『學鐙』　九二巻四号　一九九五年四月　三四―三九頁

―祇園山鉾に乗らんと企図すること―
東西文化比較往来　二　『學鐙』　九二巻五号　一九九五年五月　四四―四九頁
―京洛の山鉾と東都四神剣がこと―
（文学散歩）山紫水明綺譚（五）　『鷹陵』　一四五号　一九九五年六月　二六―三二頁
―永井荷風の「十年振」粟田御所と江戸城―
東西文化比較往来　三　『學鐙』　九二巻六号　一九九五年六月　四四―四九頁
―長刀鉾に乗り種々発見のあったこと―
法華伝道への道（四）［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一一三号　一九九五年七月　二〇―二八頁
東西文化比較往来　四　『學鐙』　九二巻七号　一九九五年七月　三八―四三頁
―韓国人の見た日本論の〝縮み志向〟のこと―
東西文化比較往来　五　『學鐙』　九二巻八号　一九九五年八月　三八―四三頁
―富永仲基の思想体系の風土論についてのこと―
東西文化比較往来　六　『學鐙』　九二巻九号　一九九五年九月　四四―四九頁
―種子島へ鉄砲伝来についてのこと―
（文学散歩）山紫水明綺譚（六）　『鷹陵』　一四六号　一九九五年九月　二六―三二頁
―成島柳北と菊池三渓と―
法華伝道への道（五）［望月日翔氏との対談］　『柴又』　一一四号　一九九五年十月　二〇―二八頁
東西文化比較往来　七　『學鐙』　九二巻一〇号　一九九五年十月　四〇―四五頁
―鉄砲を中心とする文禄の役攻防戦のこと―

東西文化比較往来　八
―鉄砲と大砲と亀甲船活躍のこと―
『學鐙』　九二巻一一号　一九九五年十一月
四〇―四五頁

東西文化比較往来　九
―周作人が「東京を懐う」を巡っての事―
『學鐙』　九二巻一二号　一九九五年十二月
三四―三九頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（七）
―古書肆竹苞楼と伊沢蘭軒伝―
『鷹陵』　一四七号　一九九五年十二月　二六―三二頁

オリエント学事始め（一）
『柴又』　一一五号　一九九六年一月　一八―二五頁

東西文化比較往来　一〇
―周氏が「東京の思ひ出」と荷風が事―
『學鐙』　九三巻一号　一九九六年一月　五六―六一頁

東西文化比較往来　一一
―姑蘇版画と「隅田川両岸一覧」の比較が事―
『學鐙』　九三巻二号　一九九六年二月　三四―三九頁

東西文化比較往来　一二
―バルラアムとヨアサフ物語と鳴神が事―
『學鐙』　九三巻三号　一九九六年三月　三四―三九頁

（文学散歩）山紫水明綺譚（八）
―梁川星巌の書牘と弄琴顛末―
『鷹陵』　一四八号　一九九六年三月　二六―三二頁

オリエント学事始め（二）
『柴又』　一一六号　一九九六年四月　二二―二八頁

東西文化比較往来　一三
―柳村上田氏が「菩薩物語由来」の事―
『學鐙』　九三巻四号　一九九六年四月　三六―四一頁

東西文化比較往来　一四
『學鐙』　九三巻五号　一九九六年五月　三四―三九頁

―インド譬喩譚とビドパイ物語が事―　『漢方通信』第五巻三号　一九九六年五月　二―四頁
シルクロードは薬の道［山崎幹夫氏との対談］　『學鐙』九三巻六号　一九九六年六月　三〇―三五頁
東西文化比較往来　一五
―熱帯モルディヴ群島とバットゥータが事―　『柴又』一一七号　一九九六年七月　二四―三〇頁
オリエント学事始め（三）　『鷹陵』一四九号　一九九六年七月　一五―二一頁
（文学散歩）山紫水明綺譚（九）
―彙文堂主人の軼事と京大東洋学―　『學鐙』九三巻七号　一九九六年七月　二八―三三頁
東西文化比較往来　一六
―実験人類学者ヘイエルダールが謎解きが事―　『學鐙』九三巻八号　一九九六年八月　二八―三三頁
東西文化比較往来　一七
―東都イラン学事始めの事―　『學鐙』九三巻九号　一九九六年九月　四二―四七頁
東西文化比較往来　一八
―荒木茂氏と恩師ジャクソン博士が事―　『柴又』一一八号　一九九六年十月　一六―二〇頁
オリエント学事始め（四）　『鷹陵』一五〇号　一九九六年十月　一二―一八頁
（文学散歩）山紫水明奇譚（十）
―東都風流韻事の一面―　『學鐙』九三巻一〇号　一九九六年十月　三六―四一頁
東西文化比較往来　一九　―西アジア学者春秋が事―　『學鐙』九三巻一一号　一九九六年十一月　三六―四二頁
東西文化比較往来　二〇
―「菩薩蛮記」とフスタートの陶片が事―

東西文化比較往来　二一
―ファロス島燈台とギリシア美術が事―
アジア海の道、過去から未来へ

東西文化比較往来　二二
―ヴェネチアと天正遣欧使節が事―
オリエント学事始め（五）

東西文化比較往来　二三
―島田謹二先生と鷗外訳「即興詩人」が事―

東西文化比較往来　二四
―鷗外作「大発見」と榊亮三郎先生のパリが事―
（文学散歩）山紫水明奇譚（十一）
―中島棕隠「鴨東四時雑詞」がこと―
オリエント学事始め（六）

東西文化比較往来　二五
―木下杢太郎のパリ古書肆が消息が事―

東西文化比較往来（完）
―島崎藤村が「平和の巴里」と横光利一「旅愁」が事―

『學鐙』九三巻一二号　一九九六年十二月　三〇―三五頁
『CEL』三九号　大阪ガスエネルギー研究所　一九九六年十二月　三五―三八頁
『學鐙』九四巻一号　一九九七年一月　五二―五七頁
『柴又』一一九号　一九九七年一月　二〇―二四頁
『學鐙』九四巻二号　一九九七年二月　三六―四一頁
『學鐙』九四巻三号　一九九七年三月　三八―四三頁
『鷹陵』一五一号　一九九七年三月　一一―一七頁
『柴又』一二〇号　一九九七年四月　二〇―二七頁
『學鐙』九四巻四号　一九九七年四月　三四―三九頁
『學鐙』九四巻五号　一九九七年五月　三四―三九頁

（文学散歩）山紫水明奇譚（十二）
―棕隠が「鴨東四時雑詞」の知恩院法会の賦―
オリエント学事始め（七）
（文学散歩）山紫水明奇譚（十三）
―棕隠子が「三都穴さがし狂詩」のこと―
オリエント学事始め（八）
（文学散歩）山紫水明奇譚（十四）
―立小便と蹲（すわり）小便　さても尾籠なこと―
オリエント学事始め（九）
（文学散歩）山紫水明奇譚（十五）
―厠に籾殻を敷くと蛾の翅を敷くと―
オリエント学事始め（十）
オリエント学事始め（十一）
オリエント学事始め（十二）
オリエント学事始め（十三）
オリエント学事始め（十四）
オリエント学事始め（十五）
オリエント学事始め（十六）
オリエント学事始め（十七）

『鷹陵』一五二号　一九九七年六月　二五―三一頁
『柴又』一二一号　一九九七年七月　三〇―三九頁
『鷹陵』一五三号　一九九七年八月　一三―一九頁
『柴又』一二二号　一九九七年十月　二四―三二頁
『鷹陵』一五四号　一九九七年十一月　二二―二八頁
『柴又』一二三号　一九九八年一月　二四―三一頁
『鷹陵』一五五号　一九九八年三月　一九―二五頁
『柴又』一二五号　一九九八年七月　四〇―四五頁
『柴又』一二六号　一九九八年十月　二六―三一頁
『柴又』一二七号　一九九九年一月　三六―四三頁
『柴又』一二八号　一九九九年四月　四〇―四七頁
『柴又』一二九号　一九九九年七月　三四―四一頁
『柴又』一三〇号　一九九九年十一月　三〇―三八頁
『柴又』一三一号　二〇〇〇年一月　三〇―三六頁
『柴又』一三二号　二〇〇〇年四月　二八―三八頁

オリエント学事始め（十八）　『柴又』一三三号　二〇〇〇年七月　二四―三二頁
足で歩く歴史探索の試みから浮かび出た肖像　『中央公論』一一五巻一〇号　二〇〇〇年九月
植木哲『新説　鷗外の恋人エリス』［書評］　三一二―三一四頁
鎌田茂雄教授を追悼するの記　『大法輪』第六八巻七号　二〇〇一年七月
四三―四七頁

オリエント学事始め（十九）　『柴又』一三四号　二〇〇〇年十一月　二四―三六頁
オリエント学事始め（二十）　『柴又』一三五号　二〇〇一年一月　二六―三六頁
オリエント学事始め（二十一）　『柴又』一三六号　二〇〇一年四月　二四―三二頁
オリエント学事始め（二十二）　『柴又』一三七号　二〇〇一年七月　二六―三六頁
オリエント学事始め（最終回）　『柴又』一三八号　二〇〇二年一月　三二―三五頁
佛教夜噺　『柴又』一三九号　二〇〇二年四月　三〇―三七頁
佛教夜噺　『柴又』一四〇号　二〇〇二年七月　五〇―五四頁
佛教夜噺（三）　『柴又』一四一号　二〇〇二年十月　四四―四九頁
江上波夫先生を悼む　『読売新聞』（夕刊）二〇〇二年十一月九日
日蓮聖人と現代［望月日翔氏との対談］　『柴又』一四二号　二〇〇三年一月　六―一七頁
佛教夜噺（四）　『柴又』一四二号　二〇〇三年一月　四六―五二頁
佛教夜噺（五）　『柴又』一四三号　二〇〇三年四月　四六―五四頁
佛教夜噺（六）　『柴又』一四四号　二〇〇三年七月　四二―四九頁
佛教夜噺（七）　『柴又』一四五号　二〇〇三年十月　四〇―四八頁

杉山二郎（一九二八―）『日本彫刻史研究法』東京美術、一九九一

佛教夜噺（八）

過去と未来をつなぐ文化遺産

［石澤良昭氏・前田耕作氏との鼎談］

『日本史文献事典』黒田日出男［ほか］編　弘文堂　二〇〇三年十二月　六二七―六二八頁

『柴又』一四六号　二〇〇四年一月　三四―四三頁

『国際交流』第一〇二号　二〇〇四年一月　二―一一頁